

第 56 回 百周年記念史誌部会議事録

日時: 2010年12月21日(火)16時00分～16時45分

場所: 事務棟 第一応接室

出席者: 横山孝男部会長、栗野宏、松田則男、大町竜哉、奥山澄雄、高畑保之、新関久一、山崎洋一郎各委員、小関栄助氏、小室秀一編纂室員、斎藤ひろみ編纂室補助員

欠席者: 小山明夫、神戸士郎、小池邦博、綿貫藤雄、片山政弘、三角太郎

【配布資料】

[資料 56-1] 山形大学工学部百年史編集局ホームページ [A4/2 頁]

[資料 56-2] 百年史の構成と日程(素案) [A4/2 頁]

[資料 56-3] 工学部通史校閲担当 [A4/4 頁]

[資料 56-4] 機械システム工学科部局史 [A4/1 頁]

I) 報告&連絡事項

1. 斎藤ひろみ編纂室補助員からホームページの更新に関する報告があった。

- (1) 12月1日に今月の話題(栗野宏/2010年12月号)を公開した。
- (2) 12月14日に100年史誌部会 第55回議事録を公開した。
- (3) 12月16日に部会委員専用校閲用資料を追加した。

II) 協議事項

1. 百年史

① 今月の話題

1). 小室編纂室員から担当委員の諸事情により、今月の話題は来月に持ち越すことの報告があった。

② 百年史の構成と日程(校閲日程・出版までの計画など)

1). 栗野ヒストリー班長から資料 56-2 に基づき説明があった。すなわち、今まで B5 版となっていた版型を A5 版に修正する。紙クロス貼りの上製とする。美装箱では無く簡易箱に入れる。想定ページ数は 550 ページ。発行部数は概算したところ 400 部を予定する。

2). また、ISBN を取得する予定である。

3). 小室編纂室員から資料 56-3 に基づき説明があった。通史第 12 章第 1 節が未入稿である(横山部会長が 21 日執筆のお願いをした)。第 11 章は内容に空白があり未完の状態である。部局史では、機械システム工学科第 3 節が入稿した。機能高分子工学科、物質化学工学科、米沢工業会が未入稿である。

4). これらの説明に対し、ISBN は大学が取得するのか、山形大学出版会が ISBN を取得しているのではないかと、などの質問があった。それに対して今回の百年史は山形大学出版会とは別に発刊したい旨説明があり、また取得にかかる費用も 10,500 円と安価であることから、今回独自に取得したい旨説明があり、了承された。

5). 横山部会長から工学部長等との打ち合わせ内容の報告があった。頒布部数として有償(¥5000)とした場合、OB からの購入部数を山崎委員から 50~100 部と見積もっていただいた。更に無償配布では、公的機関に 196 部、5 万円以上寄付のある企業や団体 234 社に贈呈する分を合わせて計 400 部強になる。更に個人で一定額以上の寄付をされた方々への贈呈は 100 部とした。これはほぼ山崎委員見積もり部数と重なるので有償、無償にしても計 600 部を発刊部数とした旨、報告があった。

6). 財務・会計で以上の装丁と発刊部数をもって公告した。今後見積などから発注する会社を決める。

7). 贈呈以外の部分について、一般に頒布する可能性、その場合の有償/無償の判断については実行委員会総務部会で判断する。ISBN の申請にあたり、非売品でも問題は無い。

③ ジャーナルの残部について

- 1). 現在、540部ほど残部がある。この内300部は未発送分であるため、実質240部が残っている。残部について、国立国会図書館や県内の公立図書館に未納であり、これら公的機関に謹呈する必要がある。そこで百年史を発刊する際に、百年史と一緒に配布することが望ましいとの提案がなされ、了承された。それでも残る分については高校訪問時に持って行っていただくこととする。

④ 機械システム工学科部局史

- 1). 大町委員から資料56-4に基づき説明があった。
- 2). 4名の教員にインタビューをして、第3節 機械システム工学科の設置についてまとめた。また、歴代の学科長、現在の教員と専門分野の一覧を附した。
- 3). 小室編纂室員から句読点について「，」「.」では無く「、」「。」を使うよう指摘があった。

III) その他

1. 百年史の印刷・製本業者に関して、100年記念誌とは異なり体裁の配慮等は必要としないことや、入札価格だけではなく、大学への従来への貢献度なども考慮して選定して欲しい旨要望があり、その旨を関係者に既に伝えていることを確認した。
2. 次回の部会について
次回の会議は2011年1月24日(火)16時から開催の予定。

2010年12月22日